

第17回神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール  
優良賞  
鳥取東高等学校3年  
武井 まあやさん

『いのちよ、静かであれ』

静かに、いのちよ、静かに。

池の水面みたいに  
そっと、しずかにしてごらん。

そうしたら、見えてくるよ。

お魚たちが泳いでる。  
雲のあいだを、  
葉っぱのあいだを。

ZZZZZZZZZZ

小さなカタツムリみたいに  
じーっとしてみよう。  
おひさまの下で  
すやすや眠っているカタツムリみたいに。

そうしたら、そのかげが  
ずーっと長く……

（あれれ、長すぎちゃった！）

見て、見て！  
あそこにいるの、なあに？  
背の高い草のあいだで  
なにかが動いてるよ。

ほら、じっとして。  
ゆっくり、ゆっくり――  
あわてて動いちゃだめだよ。

今、見えた？  
あの影が、スイレンの葉っぱから  
すーっと離れていったの。

あらまあ、はずかしがりやの  
ちいさなカメさんだ！  
オレンジいろの  
ちいさなスケートぐつをはいてるよ！

カメって、スケートできるの？  
もちろん！ とってもじょうずだよ。  
でもね、  
スピードスケートのレースで  
いちばんになるのは……  
ちょっとむずかしいかも！

「こんにちは！」  
「やあ！」

さあ、木の葉っぱを  
見上げてみよう。

そよそよ風に吹かれて、  
葉っぱがゆらゆら揺れているよ。

葉っぱが一枚一枚、  
動く音が聞こえる？

ほら、あの音。  
葉っぱたちが、  
木から離れていく音だよ。

「ひゅ————っ！」

葉っぱの向こうに広がる  
あの空は、どうだろう？

もしも空に歌があったなら、  
どんな歌を  
うたうと思う？

ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド

しずかに、いのちよ、しずかに。  
くだものがおさらに  
ちょこんとのっているみたいに。

すると聞こえてくるかもしれないよ。

ぱりっとした夏のりんごが  
ぶんぶん歌う声。

なしさんも仲間入りして、  
なしみたいなおしゃべりを  
ぺちやくちゃ、ぺちやくちゃ！

ほんとうだよ、  
バナナだって  
とってもじょうずに歌うんだ。

あま〜い歌声、  
きいろに、オレンジ、  
ピンクに、なんとあお！

しーーーーっ、いのちよ、しずかに。  
ねずみさんみたいに  
そーっと、しずかに……

そうしたら聞こえるかもしれないよ。  
ちいさなねずみの足音が、  
トントン、タタタッ。

おうちの中をかけまわって、  
通りへ出ていく音が。

ZZZZZZ

しずかに、いのちよ、しずかに。  
眠っているからだみたいに、  
じーっとしてみよう。

すると、心臓が動いているのを  
感じるよ。

心臓はいつだって起きていて、  
トクン、トクン。  
トクン、トクン！

これはどうかな？  
なにも聞こえないのも、

聞こえるかな？

しずけさの中、  
じーっとしていると、  
そこには何かがあるよ。

それは……きみ？

しずかに、いのちよ、しずかに。  
夜が明ける、そのときに。

朝の歌が聞こえたら、  
おひさまの光を  
感じるよ。

さあ、いったん立ち止まって  
くんくん、においをかいでみよう。

なにのにおいがするかな？

この本のページのにおい？  
それとも……  
わんちゃんのおくちのにおい？

「わんちゃんのおくち？！」

「こんにちは！」

わんちゃんにとって、  
においはみんなちがって  
ひとつひとつ、とくべつなんだ。

だから、道で会ったときも  
においで、きみがわかるんだよ。

きみは、どんなにおいかな？

春になったら、  
ざあざあと降る雨のにおいが  
わかるかな？

それから、  
毎朝目を覚ますお花たちの